



令和4年度

施政方針



## (はじめに)

令和4年第1回荒尾市議会の開会に当たりまして、施政の方針を申し述べ、議員の皆様及び市民の皆様のご理解、ご協力を得たいと存じます。

まず、申し上げなければならない喫緊の課題は、新型コロナウイルス感染症の拡大であります。新型コロナが国内で初めて確認されてから既に3年目を迎えておりますが、いまだ収束は見通せず、特に感染力の強いオミクロン株が引き起こした第6波は、本市においてもこれまで以上に多数の感染者を確認するに至っております。

この間、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、感染拡大を極力抑制する対応がとられ、その都度一定の効果も見られたところではありますが、ウイルスが増殖や感染を繰り返す中で新たな株へと変異することにより、感染も繰り返される状況が続いているところであります。

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置は感染を抑える効果がある一方、経済活動には大きな痛みを伴います。特に飲食業、観光関連事業等サービス産業への影響は大きく、本市としても様々な対策を講じながらこれら事業への支援を行っているところであります。

また、医療体制につきましては、デルタ株が流行した第5波において、保健所に代わって荒尾市民病院がコロナ患者のトリアージを行った上で、荒尾市医師会も在宅診療に加わる「有明モデル」と呼ばれる方法が確立され、有明地域のコロナ患者の診療に大きな成果をあげたところであります。

市民の皆様には、新しい生活様式の下、感染を防ぐ様々な対応に全面的にご協力いただき改めて感謝申し上げる次第であります。

新型コロナの収束は、何よりワクチンの3回目接種を急ぐことにあります。市で設置します集団接種や各医療機関による個別接種などを活用され、多くの市民の皆様にごできるだけ早期に接種されるようお願いいたします。市としても最大限の準備を行っております。

新型コロナの収束と社会経済活動の回復を令和4年度においても最重要課題として取り組んでまいります。

さて、本市は昭和17年4月1日の市制施行からこの4月で80年の大きな節目を迎えます。

先人たちが築き上げて来られた荒尾市を、私たちは次の世代に引き継ぐ大きな使命があります。

4月3日に挙げる記念式典を始め、令和4年度に実施する市制施行80周年記念事業などを通して常にそのことを意識した1年にしたいと考えております。

その市制施行80周年記念事業のスタートとして、4月1日には新しい市立図書館を

開館します。

現在の図書館をあらおシティモールに移転整備することについて、関係者間で協定を締結してからわずか1年5か月という短期間で開館を迎えることができたのは、本市が進める官民連携による取組がその特性を発揮した成果であろうと思います。

新図書館は、公立図書館としては全国で初めてデジタルライブラリーを有するなど、数々の特徴を持った施設となっており、「未来につづく図書館」という基本方針の下、次の世代も含めて多くの市民の皆様にご利用していただきたいと考えております。

南新地地区の「あらお海陽スマートタウン」と共に、緑ヶ丘地区を荒尾市の活力のエンジンとして更に活性化するとともに、新図書館の開館を機に荒尾市の新しい一面として「本のまち 文化のまち あらお」と誇れるようなまちづくりを進めていきたいと考えております。

それでは、令和4年度に本市が取り組む主要な施策の内容につきまして、「第6次荒尾市総合計画」に掲げる重点戦略「あらお未来プロジェクト」の5つの柱に沿ってご説明いたします。

## **(主要な施策)**

### **「切れ目のない充実した子育て環境をつくる」**

まず、一つ目の「切れ目のない充実した子育て環境をつくる」であります。

妊娠から出産・子育てに至るまでニーズに合わせた切れ目のない支援に加え、子どもの成長段階に合わせた支援、教育の質の向上への取組などにより、子育て環境としての魅力向上を目指してまいります。

新生児の聴覚障害の早期発見・早期治療を図るために、新生児の聴覚検査に係る費用助成を行います。

出産後の母子の健康を支援するため、産科医療機関における宿泊型の産後ケア事業を開始し、育児に不安を持つ母親への心身のケアや育児などのサポートを行ってまいります。また、乳児期の支援の充実を図るため、生後6～7か月児を対象とした相談事業を実施します。

学童クラブにおける待機児童の解消を目指して荒尾第一小学校敷地内に放課後児童クラブを整備し、子育てしやすい環境づくりを推進してまいります。

教育環境につきましては、児童生徒1人に1台配備したタブレット端末の更なる活用のため、快適かつ安定的なネットワーク環境の向上を図ってまいります。また、清里小学校及び海陽中学校の外壁改修・屋上防水に取り組むとともに、バリアフリー化に関する整備目標を盛り込んだ長寿命化計画の見直しを行ってまいります。

長洲町と共同で整備する新学校給食センターについては、令和3年度から本体工事に

着工しており、9月から給食の提供を開始いたします。

学力の向上については、「授業改善アドバイザー」を派遣することで、「進化型あらおベーシック」の確実な実施と質的改善を図るとともに、中学生全員を対象とする英語検定助成、ALTの5人体制及び英語教育指導力向上のための教職員研修を実施することで、英語教育の日常化を目指してまいります。

また、孫文と宮崎滔天の友情により始まったシンガポールとの交流については、本市中学生とシンガポールの中学生とのICTを活用した交流を実施し、地域アイデンティティの醸成を図りながら、異文化・多文化を尊重する姿勢を育んでまいります。

不登校対策としましては、令和2年度に第三中学校に設置した「ハートフルルーム」を全中学校に設置するとともに、小岱教室においても、支援が必要な児童生徒の学習指導やカウンセリングを行うことで不登校の改善や未然防止を図ってまいります。

### **「誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる」**

次に、二つ目の「誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる」であります。

誰もが地域の中でつながりを持ち、安心して生活できるよう多様性を尊重した地域共生社会の実現を目指すとともに、心身ともに健康であり、生きがいを持って生活できるよう目指してまいります。

新市民病院の建設につきましては、令和3年度に免震基礎の工事をおおむね完了し、令和4年度は建物本体を立ち上げ、令和5年10月の開院に向け、着実に進めてまいります。

保健・福祉・子育て支援施設につきましては、子どもから高齢者までが生涯を通じてすこやかに生きるための総合的な施策を行う拠点として、その機能が効果的に発揮できるスキーム作りを行ってまいります。

また、保健事業と介護予防事業を一体的に実施することで、高齢者ができる限り長く自立した日常生活を送ることができるよう、特性に応じた支援を行ってまいります。

認知症への対応としましては、その予防法や治療法の確立を目的とした2回目となる認知症コホート大規模調査に熊本大学と連携して取り組むとともに、たとえ認知症の症状や障がいがあっても、安心して暮らせるよう成年後見制度の利用促進を図るための体制を整備してまいります。

障がい者の社会参画を後押しするため、広報や市主催イベントによる啓発活動に取り組み、「第3次荒尾市障がい者計画」などの基本理念である「障がいのある人もない人も、地域で安心していきいきと暮らすことができるまちづくり」を進めてまいります。

また、長期にわたり就業していない方やひきこもりの方に対しては、生活相談支援セ

ンターによるきめ細かな支援により、社会的孤立を防止し、誰もが安心して暮らせるまちづくりを行ってまいります。

男女共同参画社会を力強く進めるために、職場・家庭・地域といった身近な場において地域リーダーを育成することで、お互いを尊重し、地域でつながりを持つことができるような環境をつくってまいります。

生涯学習の推進につきましては、4月に開館する新市立図書館で掲げる、学びを「つたえる」、交流活動と「つながる」、未来に「つづく」の三つの基本方針の下、学校図書館との連携や郷土学習の充実など新図書館を核として取組を進めてまいります。

また、地域と学校の連携・協働体制を築くため、全ての小・中学校にコミュニティスクールを設置いたします。

### 「雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる」

次に、三つ目の「雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる」であります。

市内の雇用の場を拡大するとともに、あらゆる人が市内で就職しやすい環境をつくることで、人手不足の解消を図るとともに、地域産業の生産性向上や地域経済循環の活性化などを図ることで、所得の向上を目指してまいります。

市内企業との情報交換や交流を通じて企業ニーズを把握することで、効果的な支援を行います。

企業誘致については、半導体の受託生産最大手であるTSMCの熊本県内への進出を好機と捉え、半導体関連企業やIT系企業など業種を絞った誘致活動を行ってまいります。

地元就職の促進については、企業視察ツアーや大牟田市との合同による地元企業と学校との情報交換会を行い、地元雇用につながるマッチングの機会を創出するとともに、オンデマンド動画による企業紹介を行い、企業の魅力を広く伝えてまいります。

また、長期化する新型コロナの影響を受けた生活困窮者を中心に、ハローワーク等の関係機関と連携を強化し、より丁寧な就労支援を行うとともに、事業者向けの働き方改革に関するセミナーを開催するなど働きやすい職場づくりを促進してまいります。

新型コロナの市内経済への影響を抑えるための取組としては、キャッシュレス決済「AraoPAY」を活用したプレミアム付商品券の発行や市内宿泊施設を割安で使用できる宿泊チケットの販売など、国からの交付金を最大限活用しながら地域経済の活性化に取り組んでまいります。

農業の振興につきましては、圃場整備をはじめとする基盤強化や農地集積を推進するとともに、「道の駅」開業も見据え、野菜や果物の新規推奨作物や農業用機械等の導入への支援を行い、収穫量や品目の充実を図ってまいります。また、市内飲食店などと連

携した地元農産物の消費拡大を図ってまいります。

本市特産の梨につきましては、ヤケ梨対策として、県推奨品種への転換に対する苗木補助を行うとともに、インターネットでの販売サイトの拡充や販売会の開催などによる販路拡大を図ってまいります。

水産業につきましては、新たな収入源とすべく荒尾漁協と連携してマガキ養殖に取り組んでまいります。また、産地偽装問題に揺れたアサリにつきましては、熊本県と連携して信用回復に努めるとともに、覆砂、エイによる食害対策等の支援を行い、漁獲量の向上を図ってまいります。

### 「あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる」

次に、四つ目の「あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる」であります。

移住促進に向けたプロセスとして、本市と継続的に多様な形で関わる人々を「あらおファン」と位置付け、まずはその拡大を図り、それぞれの関わりを深めることで、本市への好感度を高め、最終的に移住につなげることを目指してまいります。

観光振興につきましては、荒尾干潟と万田坑という二つの世界基準の観光資源を核に、本市の様々な観光資源を周遊できるように、観光アプリによるデジタルスタンプラリーを実施します。

令和4年度は、荒尾干潟がラムサール条約登録から10年目を迎えることから、記念講演やイベントを開催するとともに、テラー乗車をはじめとする体験プログラムなどにより、荒尾干潟にしかない魅力の発信を行ってまいります。

万田坑では、経年劣化が著しい「倉庫及びポンプ室」などの保存修理と構造補強工事を実施するとともに、寄贈を受ける炭鉱電車の一般公開に向けた保存整備を行ってまいります。また、万田坑ステーションにおけるデジタル技術を活用した展示やVRによる疑似体験により、集客や情報発信に努めてまいります。

野原八幡宮風流については、保存継承のために映像記録を作成するとともに、ユネスコ無形文化遺産への登録を見込んで、採択に合わせてパブリックビューイングを実施いたします。

「あらおファン」の拡大に向けましては、広報やホームページをはじめとして、より見やすく、伝わる情報発信を進めてまいります。また、LINEを活用した利便性向上の取組を拡大するとともに、市外への情報発信については、特に観光、移住・定住につながるシティプロモーション戦略を策定してまいります。

本市への移住・定住の促進につきましては、移住コーディネーターによるきめ細かなサポートに加え、住宅確保への支援、移住・定住希望者に対する補助や、県のマッチン

グサイトを介した東京都市圏からの移住者に対する費用の支援制度を活用して推進してまいります。

### 「先導的で持続可能なまちをつくる」

最後に、五つ目の「先導的で持続可能なまちをつくる」であります。

先端技術の積極的な活用による生活利便性の向上などによる暮らしの質の向上、本市における新たな中心拠点づくりや災害等に強いまちづくりを目指してまいります。

あらお海陽スマートタウンにおいては、新しい場外馬券売場の開業に合わせてアクセス道路を供用開始し、旧競馬場スタンド施設の解体工事に着手するとともに、準備が整った街区から順次、事業者の公募を行ってまいります。

また、荒尾駅の改修イメージづくりと荒尾駅からあらお海陽スマートタウンまで連続する地域のまちづくりのための整備計画を策定してまいります。

道の駅と保健・福祉・子育て支援施設を複合化した「ウェルネス拠点施設（仮称）」は、PFI方式で整備・運営することとし、事業者選定を行ってまいります。

地域高規格道路「有明海沿岸道路」については、三池港インターチェンジ連絡路の着工に伴い、早期開通に向けて全面的に事業協力を行ってまいります。

先進技術をいかして暮らしを快適、便利にしていくスマートシティの推進につきましては、令和4年度も「ウェルビーイング・ミラー」を用いた実証実験を行う予定です。

顔認証システムを使った見守りサービスにつきましても、早期の導入に向けて検討を続けてまいります。引き続き「あらおスマートシティ推進協議会」の枠組みなど、産官学の強力なパートナーシップで快適さと幸せを実感できるまちづくりを進めてまいります。

また、全世代型のデジタル社会を構築するため、「荒尾市DX推進計画」を指針とするとともに、民間企業と連携してスマートフォンの使い方教室を地域に出向いて行うなど、幅広い世代の市民の皆様が気軽にデジタル化の恩恵を享受できるよう取り組んでまいります。

交通ネットワークにつきましては、利便性が高く、持続可能な旅客サービス提供の確保に向け、新たに公共交通計画を策定します。また、おもやいタクシーを活用して、医療福祉や観光振興など各政策分野との連携による「荒尾版Ma a S」の取組を進めてまいります。

持続可能な循環型社会の形成への取組としましては、自治体版RE100による公共施設からのCO2ゼロを目指すとともに、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」に向け、市民、事業者及び行政が連携して地球温暖化対策の推進に取り組んでまいります。また、国が進める脱炭素先行地域づくり事業に



手をあげ、国の補助金を活用して個人住宅や事業所の太陽光パネルなどの設置に補助を行ってまいります。

荒尾干潟の保全については、荒尾干潟水鳥・湿地センターを中心にラムサール条約登録湿地である荒尾干潟の重要性について学校における環境学習など啓発を継続するとともに、干潟の保全や賢明な活用に向けた取組を進めてまいります。

災害等に強いまちづくりについては、近年頻発する集中豪雨等の自然災害から市民生活を守るため、ハード・ソフト両面から強化を図ってまいります。

ハード面では、豪雨による浸水被害を軽減するため、浸水シミュレーションを踏まえた浸水防止対策を検討してまいります。また、荒尾港海岸堤防において、高潮、海岸浸食による浸水被害を未然に防止するため、堤防補強工事を行ってまいります。

ソフト面では、地区の防災計画の策定を支援するとともに、避難行動要支援者に対する個別計画の策定についても、各地区と連携しながら進めてまいります。

また、地域防災力の中核である消防団の活動を更に充実・強化するため、団員の処遇改善及び資機材の整備充実を行い、消防団員の確保と安全面の強化に努めるとともに、自主防災組織と連携した取組を推進してまいります。

防犯対策につきましては、防犯カメラの追加設置や地域におけるLED防犯灯設置費用の助成を行うとともに、安全・安心なまちづくりに関する協定を交わした荒尾警察署と連携して犯罪が起きにくい地域づくりを推進します。

空き家対策については、空き家の発生抑制、利活用・除却の促進、適正管理を行ってまいります。

また、老朽化が著しい市営住宅大和団地にお住まいの方々に対して、バリアフリーなどの必要な改修を施した他団地の低層階への転居をお願いし、より快適で安全な住宅環境を提供してまいります。

学校施設や市営住宅など公共施設の維持管理全般については、市民サービスの向上と管理の効率化のため、令和5年度からの包括的な管理委託に必要な準備を進めてまいります。

旧観光物産館及び旧第五中学校については、民間による有効活用を図るため、設備等の改修を行ってまいります。

#### **(令和4年度当初予算案の概要)**

次に、令和4年度当初予算の概要であります。

令和4年度当初予算に対する考え方は、ただいま主要施策ごとに一般会計を中心に述べたところであります。このほか特別会計、企業会計を含めた規模について申し上げますと、一般会計が246億4000万円、特別会計が160億9,122万7千円、企

業会計が179億4,663万1千円で、全会計の総計は586億7,785万8千円といたしました。

これを前年度当初予算と比較しますと、一般会計は6.8%の増、特別会計は7.2%の増、企業会計は28.5%の増、総計で12.7%の増となっております。

### （おわりに）

以上、「あらお未来プロジェクト」に沿って、令和4年度の主要施策を述べさせていただきました。

令和4年度は、市制施行80周年を迎えることから、本市の歴史を後世に引き継ぐ取組と先進的なまちづくりを融合する『温故知新推進予算』とも言える編成としました。

先人の功績に感謝しながら、歴史や文化を人づくりの基盤として、大切にしていきたいと考えています。

新型コロナにより、私たちの暮らしや働き方など大きく変わりましたが、あらゆるものの一極集中が見直されており、地方にとって大きなチャンスでもあります。

今だからこそ、“つながり”を大切にしながら、荒尾市のまちづくりに『共感』し、互いに『信頼』できる大学や高専、企業などと連携し、付加価値の高い荒尾らしさを具現化するチャレンジを続け、地域経済の好循環と多くの人に選ばれ幸せを実感する『暮らしたいまち 日本一』を目指してまいります。

今後も、議員各位及び市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、令和4年度の施政方針といたします。